循環器研究と腫瘍免疫を融合させた新たなアイデアへの挑戦

学術研究院 医学系 助教
（医学部医学科）

田中 愛

Megumu Tanaka

Shinshu University Role Model Profiles

現在の仕事

血管の恒常性が、がん転移や免疫応答をどのように制御するのかを解明する研究に取り組んでいます。がん転移は今も大きな課題であり、私は「血管の安定性」という視点から、循環器研究と腫瘍免疫を融合させた新しい研究領域を切り拓こうとしています。基礎研究で得られた知識を、将来の治療につながるアイデアへ発展させることを目指し、日々実験や研究計画づくりに取り組んでいます。限られた時間の中でも成果を積み重ねていくことに、研究の面白さと責任を感じています。

今の自分があるのは

キャリア形成において大きな支えとなったのは、保育園や児童センターといった地域の子育て支援、そして大学の研究補助者制度です。子育て中は研究時間が制限されますが、研究補助者の方に実験補助やデータ整理を担っていただくことで研究を継続することができています。また、挑戦し続ける姿勢を後押ししてくださる教授の存在や、研究をともに支え理解してくれる大学院生の協力も、大きな励みになっています。制度と人的環境の両方があってこそ、研究を続けられると実感しています。

今後の展望

大学院生としてこの教室に入り、多くの挑戦の機会をいただき、2026年4月からは助教となります。学会発表や研究費申請を通して研究の幅を広げる中で、Young Investigator Awardの受賞や大型研究費の代表を務める機会にも恵まれました。それらは自分一人の力ではなく、教授の継続的な支えと教室の環境があってこそ実現できたものだと感じています。最近では学生がYIAを受賞し、指導する立場として初めて「育てる側」の視点に立つ経験をしました。

今後はPI(研究代表者)として独立し、若手研究者や大学院生が主体的に挑戦し、自ら成長できる研究環境を築いていきたいと考えています。

研究助成採択・受賞式での一枚。
日々の挑戦の積み重ねが評価につながりました

Message

後進の女性研究者や大学生、高校生のみなさんへ

研究の道は決して平坦ではありませんが、本気で目指したい目標を掲げることが何より重要だと思います。私は大学院生時代、YIA受賞や日本学術振興会特別研究員の取得を明確な目標として掲げ、全力で挑戦しました。余裕のある日々ではありませんでしたが、後押ししてくれた教授や先輩、家族の存在に今も深く感謝しています。現在は、私が研究に向き合っている時間と同じ時間、子どもたちもそれぞれの場で努力しています。その姿を励みに、これからも挑戦を続けたいと思います。今は女性研究者が活躍しやすい環境も整いつつあります。子育てを含むさまざまな経験を力に変え、大きな目標を掲げて自分の可能性を信じてください。

子どもたちと大好きなサッカー観戦。
研究と家庭、どちらも大切な私の原動力です